依て王氏は互證參觀精審編定して四十二卷となしたるに一昨丙辰年冬月初めて劉氏嘉業堂より刊行せるもの即ち本書なり。而して本書の卷頭には此來歷を詳叙し、次に改譯人地名を錄し、各卷纂輯姓名を擧げ、後に攷證の本文に入れり。此本文は列傳第一の后妃傳より始めて順次外國傳に至り、列傳第二百二十西域四を以て終れり。每傳明史の章句を掲げ、實錄其他多くの史籍より關係事項を摘出して補正に資せり。されば明史本傳と併讀すれば得る所少からざれども大抵通行の史料より採錄せるものにして、且つ記事短簡なるを以て、餘りに多くを期待すべからざるは遺憾なり。例へば朝鮮傳には朝鮮記、明實錄、大事記、一統志、方輿紀要、識大錄、明史紀事本末、高麗志等を、日本傳にも吾學編、續通考、周咨錄、獻徵錄、識大錄、一統志等を參照せるに過ぎざるを以て其成果の程も推察せらるるなり。〔以上有高〕

● *C. W. Previté Orton:* Outlines of Medieval History. (Cambridge: at the University press, 1916)

中世史の一般狀勢變遷の概要を知得せんとする者の爲には恰好の良書たるを失はず。殊に中世期の概觀を述べたる卷頭の序文は、簡なれども能く時代の眞相を握めるものとして、推賞すべき値あらんと信ずるなり。本書は紀元三九五年皇帝 Theodosius 一世の殂落によりて羅馬帝國が全く東西に分離したる時を以て中世史記述の筆を起し、一四九二年のコロンブス新大陸發見に終れり。全編五百餘頁章を分つ十一各章を更に數節に分ちて主要なる事象を說述せり。中世一般史として固より完全なるものとは稱し難く、間々重要なる事項や方面の閑却されたりと思惟せらるゝ點鮮きにあらざれども、記述平明簡潔にして頗る要を得たるものといふべし。篇中數葉の地圖を附す、中に就いて第四圖西方敎會の大勢の如き、第六圖十四世紀の通商路圖の如き何れも簡明にして而も初學者に有益なるものなり。只本書に簡單なるビブリオグラフイの附しあらざるは、一般向の著述たりとするも聊か憾みとする所なり。

● *James Harvey Robinson:* the Middle Period of European History.(From the Break-up oi the Roman Empire to the Opening of the Eighteenth Century) Ginn and Company, Boston.

先に Breasted 敎授及 Beard 敎授と共に Outlines of European History. 二卷の好著を公にせる著者が、同書に於て自己の擔當したる羅馬帝國の倒壞より十八世紀初頭迄に至る時期を自己の意見により歐洲史中期と名附け、該時期に於ける一般史的變遷を說述しこれを別冊として出版せるもの即ち本書なり。著者が在來の中世史近世史の時期區分を用ひずして所謂中世期と十六七世紀とを

同一の史的過程に置き、これを中期として取扱へるに就いては、元より異論の多き所なるべく、何人も猥に贊同することを欲せざるべきも、單に實用上の便宜より出でたるものとすれば敢へて可否を喋々する必要なかるべし。本書の内容に至りては實に間然する所なく、挿畫寫眞極めて豊富にして興味深きもの尠からず、文化的事項の記述にも乏しからざれば、讀者を益すること甚だ多かるべく、記事簡明なる上編纂法に意を用ひ、各章末に質問題目を附し、卷尾には深切なるビブリオグラフイを擧げたれば學修者の手引として多大の利便を供するものと云ふべし。

● *Alexander Kornilov*: Modern Russian History. translated by Alexander S. Kaun. 2. Vols. (Alfred A. Knopf New Jork, 1916, 17)

本書は Kornilov 氏が十九世紀露國史として、十九世紀の初頭よりアレキサンダー三世の晩年に至る近世露西亞の最重要なる時期を說述したるものをば Kaun 氏が英譯し最後にニコラス二世時代（一八九四—一九一六）を附して出版せるものなり。原著は三篇に分たれ、第一篇は十九世紀に入るべき準備時代たるカザリン二世の御代より說き起こしてアレキサンダー一世の時代の對外關係内政革新の企圖、露國民社會の進運を說き、第二篇にはニコラス一世の内外政策、國民生活の實狀よりアレキサンダー二世の有名なる内政改革の時期に及び、第三篇は同帝が一八六六年以後の反動政策よりアレキサンダー三世の晩期一八九〇年に至りて筆を擱かれたり。著者は此以後の時代卽ち一八九一年より九二年に亘る飢饉に次ぐ所の新時期は、國家の社會的經濟的生活に大變動の現れ來る時にして、露國近世史中に一時期を劃すべき分界點は正に一八九〇年にありとし同年以後の叙說を他日に讓れり。本書は前世紀の露國を知らんとするものに對して、他の類書に比し確かに豊富なる又同時に組織的なる知識を供するものにして、殊に此時代の露西亞の内的事情卽ち國民的發達を窺はんとするものには甚だ有益にして利便なる著述と云ひつべきものなり。前に Mavor 氏の露國經濟史の好著を得たる吾人は更にこの譯書に接し、我邦人にも現代露西亞を形成せる史的過程に關し確實なる知識を供することの容易となれるを慶ぶものなり。

● *J. A. K. Marriot*, the Eeastern Question, an Historical Study in European Lipjomacy. (Oxford, 1917)

近東問題をば歴史的に觀察し其起原來歴をば系統的に記述したる好著なり。著者は先づ近東問題の經過を概說し、其地理及政治關係を一瞥して其れより本論に入りオツトマン帝國の建設より說き起して十八世紀時代の對露墺關係、ナポレオンと近東問題、希

臙の獨立、一八三〇—四一の東方問題、クリミヤ戰爭、ルーマニヤ國の成立、露土戰役前後の經過を歷叙し、進んでバルカン諸國の實狀、新勢力獨逸の近東政策、マセドニヤ問題青年土耳古黨の革命運動を論じ、引き續いてバルカン同盟、バルカン戰爭より一九一四—一六の最後の戰亂に說き及ぼせり、卷中處々に肝要なる地圖を示し且つ附錄に土耳古及バルカン諸邦國の君主系統表及最近百年間に於ける土耳古の版圖並に人口統少表を擧げたり。土耳古の國運、バルカン問題の推移を簡便に知らんとするものゝ爲には甚だ有益なる著書なるべし。〔與上植村〕

◎日本石器時代人民遺物發見地名表（東京帝國大學發行）

我が國に於ける石器時代の遺跡遺物の發見地を表記して、考古學的研究に多大の便宜を與へたる東京理科大學人類學教室編纂の「日本石器時代人民遺物發見地名表」は、明治三十四年第三版を出してより久しく改版增補の事なかりしが、今回柴田常惠氏專ら事に當り、大に補訂を加へ第四版を發行せるは斯界年來の希望を滿せるものと云ふべし。本書は增補の爲め、紙數五百頁に近く、收むる所の遺跡總數が五千を超ゆ、第三版の三千一百餘に比すれば其の增加著しきを見るべきなり。殊に畿內、山陰道、九州等の從來比較的遺跡の少かりしに地方に於て增加の大なるあるは研究上注意に値する所なり。編纂の體裁は畧ぼ第三版に等しきも、今次の出版に際しては、發見地排列に就て最も見易き畿內七道の順を採り、新に樺太を加へ又檢索に便ならしむるに意を用ゐ、又重複記事の訂正に注意し、前版に於ける誤謬を訂せることの著しく認めらるゝは最も喜ぶべし。方今石器時代研究の機運の盛んなる時に當り本書の出版は研究者のため好伴侶を得たるものと云ふべしたゞ望蜀の感を云はゞ故坪井博士のコロボックル論を卷頭に載することは本書の由來上必要の事とするも、其の後、石器時代の人種に關する諸方面の研究著しく進歩し、博士の時代に比するに斯界の面目一新の有樣なれば、之に關する研究の梗概なりとも附載せられて可なるべく、又前版まで追記に供する爲の卷末の餘白紙は新版にも加へらるべかりしこと是なり。（價一、二〇　丸善發賣）

〔梅原〕

◎武相鄕土史論　日本歷史地理學會編

大正五年十月より同六年四月まで前後十一回に亘りて催されたる横濱地理歷史研究會の講演筆記に校訂を加へて出版したるものにして、「上代の武相」（文學博士喜田貞吉氏）、「鎌倉武士」（八代國治氏）、「後北條氏の武相經營」（文學博士田中義成氏）、「ウイリアム・アダムスと江戸時代初期の西洋交通」（文學博士辻善之助氏）「米使ペリーの渡來」（文學士岡部精一氏）、「ハリスの渡來」（文學士大塚武松氏）、「城郭の變遷と武相」（文學博士大類伸氏）、「江戸